

すぐに わかる えびののこつ
いっき わかい えびのんこつ



えびのの

きょう ど げい のう
郷 土 芸 能

- うちうえさい 打植祭 ・ うしこえまつり 牛越祭 ・ おおだいこおどり 大太鼓踊 -



うちうえさい かとりじんじゃけいだい きょうげん ようす
打植祭 (香取神社境内：狂言の様子)

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

もくじ
目次

うちうえさい
1. 打植祭 1

いまにしちく かとりじんじゃ
今西地区 (香取神社)

たしろちく あまみやじんじゃ
田代地区 (天宮神社)

うしこえまつり
2. 牛越祭 6

にしかわきたちく すがわらじんじゃ
西川北地区 (菅原神社)

おおだいこおどり
3. 大太鼓踊 10

にしながえうらちく みなみかたじんじゃ
西長江浦地区 (南方神社)

しな い きょうどげいのう
えびの市内の郷土芸能 . . 15



【 1. 打ちえさい 打植祭】

みやざきけんしていむけいみんぞくぶんかざい
宮崎県指定無形民俗文化財

打ちえさい
打植祭っていつあるの？



いぜん まいとし きゅうれき がつ はつう ひ おこな
以前は毎年、旧暦2月の初卯の日に行われ

ていましたが、げんざい まいとし がつ にちようび おこ
現在では毎年3月の日曜日に行わ
れています。



打ちえさい
打植祭ってどこであるの？

ばしよ かとりじんじゃ いまにしちく あまみやじんじゃ たしろ
場所は、香取神社（今西地区）、天宮神社（田代

ちく ふた じんじゃ おうふく
地区）の二つの神社を往復します。

やく ねんつづ ごこくほうじょう こくもつ ゆた
約400年続いている五穀豊穰（穀物が豊かに

みの きがんさい みやざきけんしていむけいみんぞくぶんかざい
実ること）祈願祭で、宮崎県指定無形民俗文化財

になっています。



?



どんなことをするの？

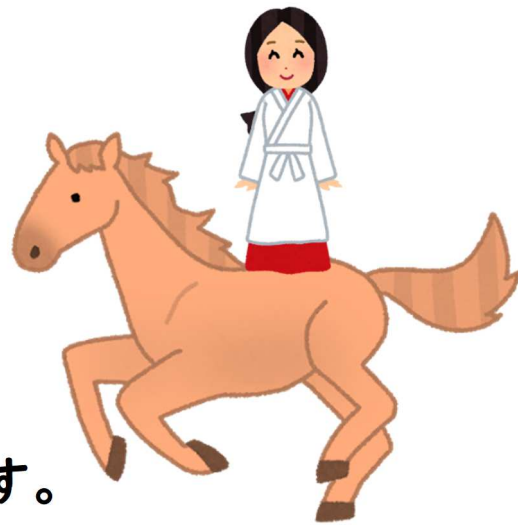
1. 香取神社（今西地区）で祝詞をあげ、女神

さまが神馬（神が乗る神聖な馬）に乗り移られます。

2. 神主を先頭に氏子

たちと共に行列は

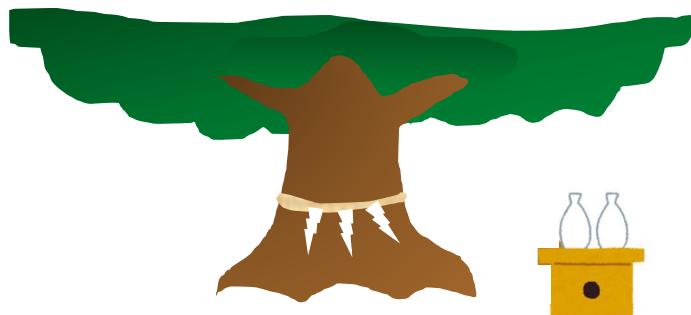
天宮神社に向かいます。



3. 一行は途中、上江地区の小宿と呼ばれる所

のゴジイ（椎）の大樹の根元にまつられてい

る神さまにお酒を供えて休憩します。



4. 一行が^{いっこう}天宮神社^{あまみやじんじゃ}に到着^{とうちやく}すると、田代地区^{たしろちく}の

住^{じゅうみん}民^みが神酒^き（どぶろく）や料理^{りょうり}などを

振^ふる舞^まい厚^{あつ}くもてなします。



5. 天宮神社^{あまみやじんじゃ}のご神体^{しんたい}は巨大^{きよだい}な自然石^{しぜんせき}で、水^{みず}の

※P5に“ご神体^{しんたい}”の写真^{しゃしん}があります。

神^{かみさま}様^{さま}であり、農耕^{のうこう}稲作^{いなさく}の神^{かみさま}様^{さま}でもあり

ます。

神馬^{しんめ}はご神体^{しんたい}を3回^{かい}まわり、

神馬^{しんめ}に男神^{おとこがみ}を乗り移^のらせませます。



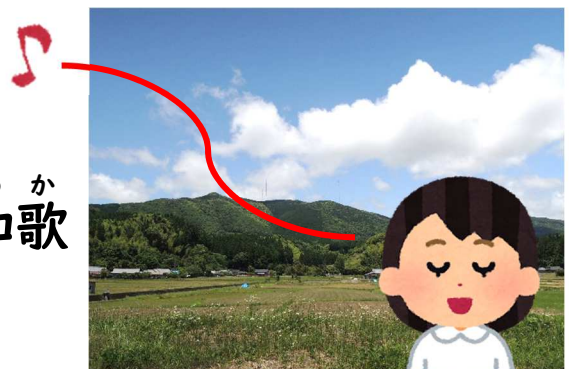
6. その後^ご、田代地区^{たしろちく}の氏子^{うじこ}たちを伴^{ともな}い、再^{ふたた}び

香取神社^{かとりじんじゃ}へ向^むかいます。帰^{かえ}りは来^きた道^{みち}とは

異^{こと}なる道^{みち}を通^{とお}り、

道^{どうちゆう}中^{ちゆう}では2か所^{しよ}で和歌^{わか}

を唱^{しょうわ}和^わします。



しんめ うじこ こ うまお
神馬は、氏子や子どもたちに「馬追い」を

たはた じゅうおう か ぬ
かけられて田畑を縦横に駆け抜けます。

しんめ しょうわ ねん うま つか
(神馬は、昭和37年ごろまで馬を使っていたが、

げんざい げんき わかもの うまやく
現在は元気な若者が馬役をつとめています。)



かとりじんじゃ りょうほう かみさま つ ふたた のりと
7. 香取神社に両方の神様が着くと、再び祝詞

をあげ、ふえ たいこ な しんじ おこな
をあげ、笛・太鼓を鳴らして神事が行われ

ます。しんじ お たけ つく つなひ
ます。神事が終わると竹で作った綱引きや

ぼくぎゅう ばこう えん たうえきょうげん
木牛による馬耕などを演じる田植狂言

ぎょうじ おこな
の行事が行われます。



たけ つく つなひ
竹で作った綱引き



ぼくぎゅう ばこう えん たうえきょうげん
木牛による馬耕を演じる田植狂言

さいご しんしよく たね けいだい
8. 最後に、神職が種もみを境内にまいて



ことしいちねん ほうさく きがん
今年一年の豊作を祈願します。



たね いえ も かえ
この種もみを家に持ち帰

かみだな そな たね
り、神棚に供えて、種おろ

たね とき ま
し(種まき)の時に混ぜて

むし いね みの
まくと、虫もつかずに稲がよく実るといわれ
ています。

あまみやじんじゃ しんたい
天宮神社・ご神体



ここではうちえさいと記載していますが、『宮崎の民俗芸能—宮崎県民俗芸能緊急
調査報告書—』P106には、「今西地区と田代地区の人たちは「打植祭(うち
うえまつり)」を「打植祭(うっえまつい)」と呼んでいます。」と記載されてい
ます。

うしこえまつり

【2. 牛越祭】

みやざきけんしていむけいみんぞくぶんかざい
宮崎県指定無形民俗文化財



うしこえまつり
牛越祭っていつどこであるの？



まいとし がつ にち にしかわきた すがわらじんじゃ おこな
毎年、7月28日、西川北の菅原神社で行わ
れます。

うしこえまつり まつ
牛越祭ってどんなお祭りなの？



た う お うし かちく むびょうそくさい
田植えが終わって牛（家畜）の無病息災と

ごこくほうじょう きがん うし げんき すがた かみさま
五穀豊穰を祈願し、牛の元気な姿を、神様に

み まるたぼう と こ うしこ
見てもらうために丸太棒を跳び越す牛越えと、

うし こ うしこ ねが
また、牛が肥えるように牛肥えの願いがあると

い
言われます。

まるたぼう と と
丸太棒を跳ぶってどのくらい跳ぶの？



けいだい とようけじんじゃ まえ せっち たか
境内にある豊受神社の前に設置された高さ

なが まるたぼう うし と こ
50 cm、長さ4 mの丸太棒を牛に跳び越えさせ
ます。



まつ ひ うし こうはく ほそぬの つの くび
祭りの日、牛は紅白の細布を角にかけ、首に

あかあおきいろ いろもの ぬの きかざ
カンコビ（赤青黄色の色物の布）をつけて着飾

しゅつじょう うし たづな ひ
って出場します。そして、牛と手綱を引く

せ こ こきゅう あ まるたぼう と こ
勢子とが呼吸を合わせて丸太棒を跳び越えま
す。



うしこえまつり
牛越祭はどのくらいつづ
続けているの？

うし げんき すがた かみさま み はじ
牛の元気な姿を神様に見てもらおうと始ま

うしこえまつり ねんいじょう つづ でんとうぎょうじ
った牛越祭は400年以上もつづく伝統行事と
なっています。

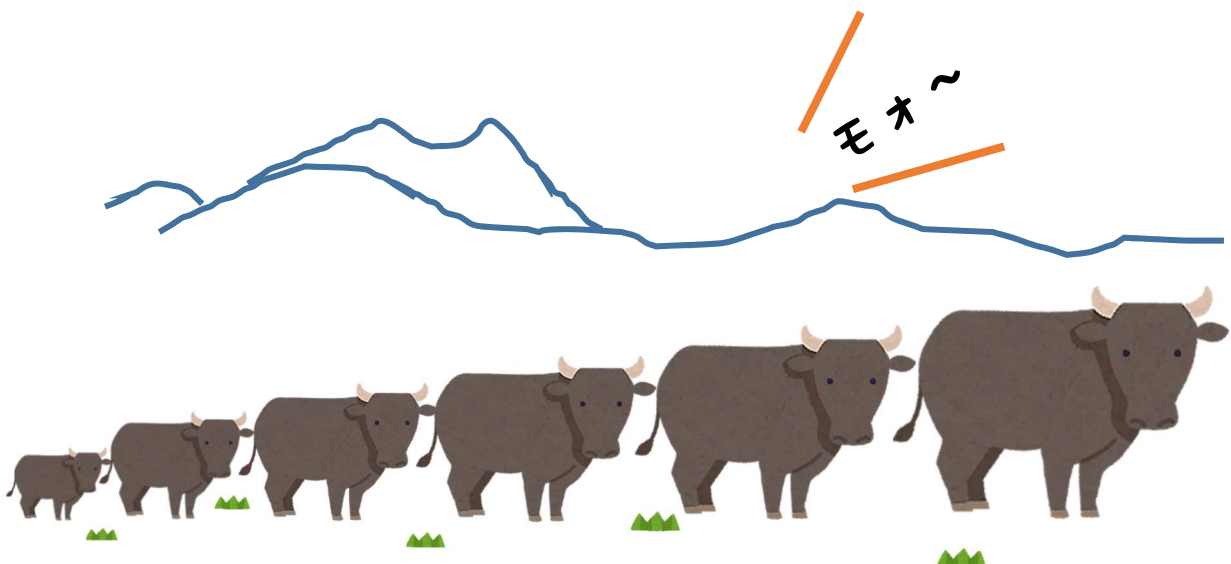
すがわらじんじゃ こじ めいじしょねん
菅原神社の故事によると「明治初年ごろの

うしこえまつり さんか うし どう たっ
牛越祭に参加した牛は400～500頭に達

せんだいがわ ふなば どうろ りょうがわ
し川内川の船場まで道路の両側につながれて

かごしまけんあいらぐん いさぐん くまもとけん
いたという。鹿児島県始良郡・伊佐郡、熊本県

ひとよし うし さんか
人吉の牛まで参加していた。」とあります。



むかし いま うし やくわり か
昔と今では牛の役割が変わっているの？



むかし うしこえまつり た はたけ
昔の牛越祭は、田んぼや畑で

はたら うし たい ぶじ たう
働く牛に対して、また無事に田植え

お たい かみさま かんしゃ きも
などが終わったことに対して神様に感謝の気持

あらわ ぎょうじ
ちを表す行事でした。

いま いくせいぎゅう こうし せいぎゅう そだ
今は、育成牛（子牛を成牛になるまで育て

はんしょくぎゅう おやうし そだ こうし しゅっさん
ること）、繁殖牛（親牛を育て、子牛を出産

にゅうぎゅう ちち しぼ うし
させること）、乳牛（乳を搾るための牛）の

けんこう あんぜん たい かみさま かんしゃ あらわ ぎょうじ
健康や安全に対して、神様へ感謝を表す行事

になっています。



にしかわきたすがわらじんじや しゃてん
西川北菅原神社（社殿）

おおだいこおどり 【3. 大太鼓踊】



おおだいこおどり
大太鼓踊っていつどこであるの？

いぜん まいとし がつ にち おこな
以前は、毎年8月28日に行われていました

げんざい がつ さいしゅうにちようび にしながえうら
が、現在は、8月の最終日曜日に西長江浦の



みなみかたじんじゃ おこな
南方神社で行われてい
ます。

みなみかたじんじゃ きゅうしょう
南方神社は、旧称

すわ だいみょうじん とびす わじんじゃ
諏訪大明神・飛諏訪神社

めいじ ねん
といい、明治3年(187

ねん みなみかたじんじゃ あらた
0年) 南方神社と改め

とち
られました。土地の

ひとびと すわ まつ
人々は“お諏訪どんの祭

り”と言っています。

おおだいこおどり ゆらい
大太鼓踊の由来ってあるの？



みなみかたじんじゃはいでん かか いたがく つぎ
南方神社拝殿に掲げる「板額」に次のように

きじゆつ
記述されています。

「おかし、この村に三人兄弟の

かみさま す となりむら
神様が住んでおり、隣村には

うつく めがみ す
美しい女神が住んでいた。

めがみ おも よ あにがみ
女神は、思いを寄せる兄神

たちをよそに、徳の高い末の

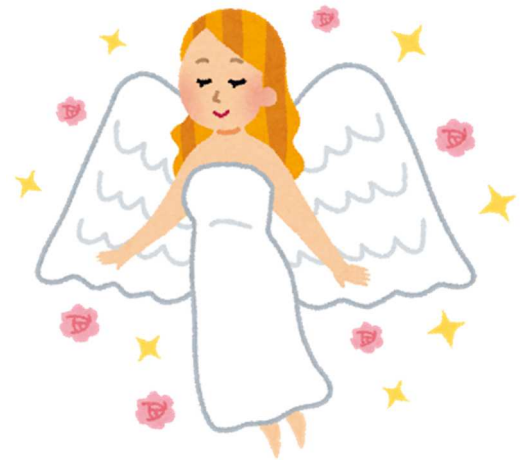
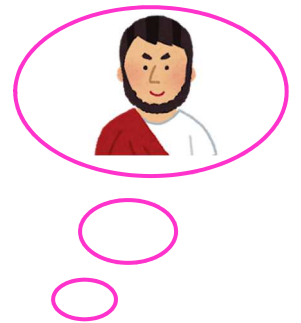
おとうとがみ した
弟神を慕っていた。

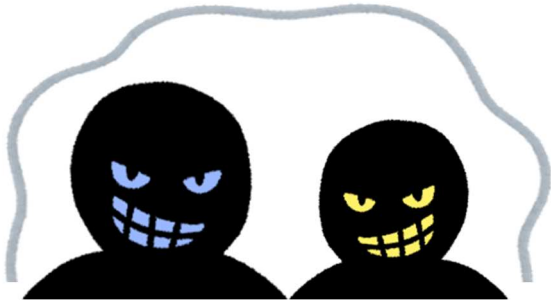
ひ あにがみ おとうとがみ な もの
ある日兄神たちは、弟神を無き者にしよう

そうだん ね くに ちか くに ちょうさ
と相談し、根の国（地下にある国）の調査にか

こつけて、おとうとがみ ね くに お かえ
こつて、弟神を根の国に追いやり、帰って

こ
来られないようにすることにした。





それとは知らぬ 弟^{し おとうと}

神は兄神たちの命^{がみ あにがみ めい}ずる

ままに、根^ねの国^{くに}に通^{つう}ずる小^{ちい}さな穴^{あな}から、垂^たれさ

げられた一^{いっぽん}本の繩^{なわ}をつたって根^ねの国^{くに}におりて

い
行^いった。

弟^{おとうとがみ}神^ねが根^{くに}の国^{たっ}に達^{とき}した時^{あにがみ}、兄^{あにがみ}神^{あにがみ}たちはその

なわ 繩^{なわ}を鎌^{かま}で切^きり落^おとしてしまった。そのため、

弟^{おとうとがみ}神^{おとうとがみ}は村^{むら}に帰^{かえ}ることができな

くなり、根^ねの国^{くに}をさまよい歩^{ある}

かねばならなくなった。

やがて弟^{おとうとがみ}神^{おとうとがみ}は、ある家^{いえ}に

たどりつき、一^{いちや}夜^{やど}の宿^{もと}を求め

たが、その家^{いえ}の主^{しゅじん}人は死^{しにん}人が

あるからといって断^{ことわ}った。



やむなく ^{おとうとがみ つぎ いえ い やど もと} 弟 神は次の家に行き宿を求めた。

その家の主人は、^{いえ しゅじん さん あと} お産の後であったが、^{こころよ} 快く

^{やど か} 宿を貸してくれた。

そのうち^{ね くに ひとびと} 根の国の人々は、

^{おとうとがみ はなし き こころ} 弟 神の話を聞き心から

^{どうじょう ひみつ でぐち おし} 同情し、秘密の出口を教えしてくれた。

^{むら かえ なのか しょくりょう} 村に帰るには7日かかるので、食料として

^{いのしし にく き かま も} 猪の肉とそれを切る鎌を持たせてくれた。

^{おとうとがみ いちにちひと き にく た おし} 弟 神は“一日一切れの肉を食べよ”との教え

^{まも むら かえ} を守り、ようやく村に帰る

ことができた。

^{おとうとがみ せいかん おどろ} 弟 神の生還に驚いた

^{あにがみ つみ く せっぽく めがみ おとうと} 兄神たちは、罪を悔いて切腹した。女神は弟

^{がみ つま} 神の妻となった。





にしながえうら 西長江浦
みなみかたじんじゃ 南方神社 (境内)
けいだい

おおだいこおどり
“大太鼓踊”はこの 弟 神の生還を祝って

おとうとがみ せいかん いわ

むらびと おど ゆらい つた
村人たちが踊ったことに由来すると伝えられ
ています。

ゆらい みなみかたじんじゃ まつ ひ おど
この由来から、南方神社の祭りの日の踊

しにん いえ もの おど さん
りには死人のあった家の者は踊らないが、お産

いえ ひと さんか
のあった家の人参加するというしきたりが
あります。

いっせつ いいのじょうしゅ しまづよしひろ たいこ
また、一説に飯野城主の島津義弘が太鼓と

かねかく こ しんぜん そな さいてん かいさい
鉦各2個を神前に供えて祭典が開催され、

おおだいこおどり ほうのう い
大太鼓踊が奉納されたと言われています。

しない きょうどげいのう えびの市内の郷土芸能

れいわ ねん (2023) 8月現在 かつどう おこな 活動を行っている郷土芸能

| きょうどげいのう めいしょう 郷土芸能の名称 | ほぞんかい めいしょう 保存会の名称 | おこな じき 行われる時期 |
|----------------------------------|---|---|
| にしがえうらおおだいこおどり 西長江浦大太鼓踊 | にしがえうらおおだいこおどりほぞんかい 西長江浦大太鼓踊保存会 | がつ さいしゅうにちようび 8月の最終日曜日 |
| したおこびらわ だいこおどり 下大河輪太鼓踊 | したおこびらわ だいこおどりほぞんかい 下大河輪太鼓踊保存会 | ずいじ 随時 |
| いまにしさんだんうちわけたい こおどり 今西三段打分太鼓踊 | いまにしさんだんうちわけたいこおどりほぞんかい 今西三段打分太鼓踊保存会 | がつ にち 11月22日 |
| にしうわえ わ だいこおどり 西上江輪太鼓踊 | にしうわえ わ だいこおどりほぞんかい 西上江輪太鼓踊保存会 | あき (ほぜまつりなど) |
| ふもとわ だいこおどり 麓輪太鼓踊 | ふもとわ だいこおどりほぞんかい 麓輪太鼓踊保存会 | ずいじ 随時 |
| きんぴょうぶ 金屏風(トンコチン) | きんぴょうぶほぞんかい 金屏風保存会 | がつ にち 11月23日 |
| うえうらぼうおどり かまおど 上浦棒踊・鎌踊り | うえうらきょうどげいのうほぞんかい 上浦郷土芸能保存会 | がつ にち 7月15日 |
| まながたかぐら 馬関田神楽 | まながたかぐらほぞんかい 馬関田神楽保存会 | がつ にち 7月28日 |
| つるかぐら 水流神楽 | つるかぐらほぞんかい 水流神楽保存会 | じんじやさいし のうねんまつり がつ にち 神社祭祀・農年祭(11月23日)など |

ゆた しぜん めく 豊かな自然に恵まれたえびの市には、むかし から う つ 昔から受け継がれた

ぶんか でんとう かずおお のこ みぢか 文化や伝統が数多く残っています。身近にある

まつ ぎょうじ しら お祭りや行事のことも調べてみましょう。



<参考文献>



○打植祭

- ・著者：飯野町役場 編 書名：『飯野町郷土史』 発行年：昭和 41 年 11 月
発行者：飯野町役場 P611～612
- ・著者：えびの史談会 編 書名：『えびの第 2 号』 発行年：昭和 46 年 12 月
発行者：えびの史談会 P13～17
- ・著者：えびの史談会 編 書名：『えびの第 42 号』 発行年：平成 20 年 5 月
発行者：えびの史談会 表紙
- ・著者：えびの市教育委員会 編 書名：『えびの市の文化財』 発行年：平成 25 年
3 月 発行者：えびの市教育委員会 P16
- ・著者：宮崎県教育委員会 編 書名：『宮崎県の民俗芸能—宮崎県民俗芸能緊急調査
報告書一』 発行年：平成 6 年 3 月 発行者：宮崎県教育委員会 P106～109
- ・ふるさと散歩 No.41 (広報えびの平成 14 年 3 月号) 発行者：えびの市
- ・冊子『自然に感謝 豊作祈願 郷土のまつり』 発行年：平成 24 年 3 月
発行者：えびの市郷土芸能保存連合会
- ・冊子『伝統を舞う、未来へつなく 郷土芸能』 発行年：平成 22 年
発行者：えびの市郷土芸能保存連合会 P18

○牛越祭り

- ・著者：えびの史談会 編 書名：『えびの第 18 号』 発行年：昭和 61 年 10 月
発行者：えびの史談会 P20～P22
- ・著者：えびの市教育委員会 編 書名『えびの市の文化財』 発行年：平成 25 年 3 月
発行者：えびの市教育委員会 P15
- ・冊子『自然に感謝 豊作祈願 郷土のまつり』 発行年：平成 24 年 3 月
発行者：えびの市郷土芸能保存連合会
- ・冊子『伝統を舞う、未来へつなく 郷土芸能』 発行年：平 22 年
発行者：えびの市郷土芸能保存連合会 P19
- ・ふるさと散歩 No.70 (広報えびの平成 16 年 8 月) 発行者：えびの市

○大太鼓踊

- ・著者：えびの史談会 編 書名：『えびの第39号』 発行年：平成17年5月
発行者：えびの史談会 P131～135
- ・著者：宮崎県教育委員会 編 書名『宮崎県の民俗芸能 ―宮崎県民俗芸能緊急調査報告書―』 発行年：平成6年3月 発行者：宮崎県教育委員会 P101～P105
- ・冊子『自然に感謝 豊作祈願 郷土のまつり』 発行年：平成24年3月
発行者：えびの市郷土芸能保存連合会 裏表紙
- ・冊子『伝統を舞う、未来へつなぐ 郷土芸能』 発行年：平成22年
発行者：えびの市郷土芸能保存連合会 P2
- ・広報えびの 特集 郷土芸能（平成31年2月） 発行者：えびの市 P2
- ・ふるさと散歩 No.74 （広報えびの平成16年12月号） 発行者：えびの市

○えびの市内の郷土芸能

- ・広報えびの 特集 郷土芸能（平成31年2月） 発行者：えびの市 P2～P7



にしながえうら おおだいこおどり みなみかたじんじゃ けいだい
西長江浦 大太鼓踊 (南方神社の境内)

発行/2021年5月

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

Facebook



Twitter



〒889-4311 宮崎県えびの市大字大明司2 | 4 6 - 2 TEL/FAX 0984-35-3144